

1. 活動のテーマ

<テーマ>

動き 0歳児
～自己認識および視覚探索機能の発達（注視・接近・触察・表情変化の観察）～

<テーマの設定理由>

乳児期は、自他の区別や自己の存在に対する気づきが芽生え始める重要な発達段階である。特に0歳児においては、視覚的な刺激を通して周囲の環境や自己の姿を認識していく過程が大切とされている。

本活動では、鏡の玩具を活用することで、子どもが自分の顔や動きに興味を持ち、「これは誰だろう」「動くとうなるのか」といった探索的な行動を引き出すことをねらいとした。鏡に映る像は、自己認識の基礎を育むとともに、視線の追従や表情の変化など、発達を促す多様な要素を含んでいる。

また、保育者や周囲の環境が映り込むことで、人との関わりへの関心も広がり、安心感や愛着形成にもつながる活動であると考え、本テーマを設定した。

2. 活動スケジュール

- ・年間計画：発達段階に応じた探索活動の一環として、鏡遊びを位置付け、使用方法や安全面について職員間で共有
- ・日々の保育：子どもの発達や興味に応じて環境に鏡の玩具を設定
- ・実施後：職員間で子どもの反応や発達の様子を共有し、関わり方や環境設定を検討
- ・職員会議：活動の振り返りを行い、子どもの自己認識の育ちや探索行動の変化について意見交換
- ・継続的改善：発達に応じた玩具の配置や関わり方の工夫を行い、次の活動へ反映（1年を通して継続）

3. 探究活動の実践

<活動の内容>

- ・活動のために準備した素材や道具、環境の設定
- ・活動中の子供の姿・声、子供同士や教諭との関わり

床に設置できる安全性の高い鏡の玩具を用意し、子どもが自由に触れたり覗き込んだりできる環境を整えた。子どもたちは腹ばいや座位の姿勢から鏡に顔を近づけ、自分の顔が映る様子をじっと見つめたり、手を伸ばして触れたりする姿が見られた。

また、顔の位置を変えたり、身体を動かしたりすることで映り方が変化することに気づき、繰り返し同じ動作を楽しむ様子も確認された。保育者は子どもの発見や興味に寄り添い、「〇〇ちゃんがいるね」「お顔が見えるね」と声をかけることで、安心して遊びを継続できるよう関わった。



4. 振り返り

<振り返りによって得た先生の気づき>

本活動を通して、子どもが自分の姿に興味を示し、繰り返し鏡を覗き込む姿が見られたことから、視覚的な刺激による探索意欲の高まりが確認された。また、表情や動きの変化に反応する様子から、自己への気づきの芽生えが促されていると考えられる。

一方で、個々の発達段階によって関心の持ち方に差が見られるため、今後は設置方法や高さ、角度などを工夫し、より多くの子どもが関わりやすい環境づくりが求められる。引き続き、子どもの主体的な探索を大切にしながら、安心して取り組める環境と保育者の関わりを充実させていきたい。